

令和3年度
自己点検・評価について

京都府立大学

II 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項 1 教育に関する目標 (1) 入学者選抜		【自己点検・評価基準】 IV 年度計画を上回って実施している III 年度計画を十分に実施している II 年度計画を十分には実施していない I 年度計画を実施していない	
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
① 明確な入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を掲げ、大学入試制度改革に対応した知識・技能や思考力・判断力・表現力、主体性など、学力の多面的・総合的な評価による入学者選抜を実施するとともに、高校生への模擬講義や教員懇談会などを通じて府内高校等と連携を強化するなど、優秀で多様な学生の受入を推進する。	1 ・大学入試共通テストの実施と合わせて入試試験(一般選抜)の試験科目の見直しを行うなど総合的な評価による入学者選抜を行う。【共通】 ・府教委及び府内の高校と連携し、オンラインを含めた出張授業や高校教員との懇談会など新型コロナウイルスの影響に配慮した高大連携プログラムに取り組む。【共通】 ・府立鳥羽高校を拠点校として高校生への高度な学びを提供するWWLコンソーシアム構築支援事業に参加・協力する。【府大】	・令和3年7月30日付けで令和4年度大学入学者選抜要項及び学校推薦型選抜募集要項を、11月10日付けで令和4年度一般選抜募集要項を公表し、調査票における学業以外の日常活動状況等評価、面接などによる多面的・総合的な評価による入学者選抜を実施した。【府大】 ・舞鶴地区3高校との新たな高大連携協定を締結した。 ・府教委と連携し、令和4年度・5年度に福知山公立大学と協働して、鳥羽高校及び福知山高校において京都アドバンストプレイスメント(AP)・プログラム(先取り学習)を試行するための覚書を取り交わした。【府大】 ・WWLコンソーシアム構築支援事業に係る高大連携協力として7月10日に鳥羽高校において本学教員3名による特別講義を実施した。また、10月23日の本事業中間発表会に教員及び大学院生によるTAが参加し、指導・助言を行った。【府大】	III
II 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項 1 教育に関する目標 (2) 教育の内容			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
② 医科大学において、世界水準の研究と地域医療への貢献に向けて、医療現場での臨床実習等を通じて、専門知識・技術と医療人としての心構えを身につけるとともに、将来にわたって高い専門性を修得し得る応用力・実践力、倫理観を兼ね備え、独創的創造力・人間力のシナジーを備えた、医療人材を育成する。 また、府立大学において、京都府総合計画やSDGsなども視野に、社会のニーズに応じた新たな学位プログラムやコースワークの導入により、高い専門性と実践力を備え、様々な分野でグローバルに活躍する人材を育成する。 併せて、両大学において、社会の変革や課題に挑戦し、指導的な役割を担うために必要なコミュニケーション能力、課題発見・解決能力、論理的思考力、課題探究心や倫理観を持つ人材を育成する。	2 ・和食文化に関する大学院設置認可に向けて準備を進める。【府大】 ・具体的な科目構成や習得能力評価方法の決定など、初年度導入教育プログラムを構築する。【府大】	・外部委員を含めた準備委員会を立ち上げ、研究対象、入学想定者社会的課題等を主題とするプログラムコンセプトを確定した。その上で、文理融合を踏まえ、基礎科目・展開科目群の 카테고리と具体的科目名等カリキュラムの検討を行った。【府大】 ・教養教育センター(新生ゼミ小委員会)において、「新生ゼミナール」の取組結果を検証し、教育プログラムを構築した。【府大】	III

<p>③ 外国語教育・異文化理解教育や学生の留学の支援により、国際的なコミュニケーション力の養成や多様な価値観を備えた人材の育成を図るとともに、海外からの留学生や教員の受入の推進、外国人教員の採用増により、教育環境のグローバル化を推進する。</p> <p>また、全ての学生に対し情報リテラシーやデータ活用能力の向上など高度情報化に対応した教育を行うとともに、AI・ビッグデータ等を自分の専門分野で応用展開できる人材及び高度情報技術人材を育成するなど、Society 5.0(超スマート社会)に対応できる幅広い知識と深い専門性を持った人材を育成する。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際センターの機能を強化し、海外協定校との授業料の相互免除の拡大、外国人研究者や留学生の宿舍の拡充を図るとともに、学生の留学や教職員の海外派遣を支援するための海外サテライトオフィスの整備計画を策定する。【府大】 ・AI、データサイエンスの専門教育に特化した体制を整備し、大学運営の高度化と産業界のニーズを踏まえた人材育成を図るため、「AIデータサイエンス教育研究センター」(仮称)を設置する。【府大】 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際センターの機能強化を図るべく、各課にまたがる国際関係業務の洗い出し及び業務量の調査を実施した。また、センターで学生募集要項の英文化を実施するなど業務量の検証も一部実施した。【府大】 ・京都大学と百万遍国際交流会館の建物賃貸借契約を令和3年6月に締結し10月から運用を開始した。【府大】 ・海外サテライトについては、シンガポール及び香港を念頭に整備の調整を進めており、実地調査を来年度予定している。【府大】 ・令和3年4月に「AIデータサイエンス教育研究センター」を設置した。【府大】 ・特任教員(准教授、講師)2名を6月から採用した。【府大】 	<p>III</p>
<p>④ 医科大学において、府内の関連病院を中心とした診療参加型臨床実習・地域滞在型医療実習の実施や看護現場の現状に則した実践的な看護学教育の充実と環境整備を図り、リサーチマインドを備えた地域医療に貢献する優秀な医療人材を育成する。</p> <p>また、府立大学において、地域課題を解決するための企画力・提案力・実行力を身に付けるための人材育成プログラムの開発や現場体験・フィールドワーク・課題探求型学習の充実により、地域社会と協働して実践的に活動する人材を育成する。</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域創生人材育成プログラム」の実施など地域をキャンパスとして、課題探求型学習をオンライン授業も含めた様々な手法を用いて行う。【府大】 ・下鴨農場でのフィールドワークを取り入れた文理融合型の実践的な実習プログラムを構築する。【府大】 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域創生人材育成プログラム」を実施し、講義は99名、地(知)の案内人による演習は109名、インターンシップは12名が受講したほか、前後期を通じて課題探求型学習も実施した。(例:南丹市美山町において、鹿害防止柵の設置と経過的な植生調査を行い、得られた結果について子どもらを含めた地域住民へ還元するなどした。)(府大) ・和食の歴史、異文化との比較(比較食文化、地理比較)、芸術的価値、科学的価値及び認識科学を融合し、研究で得られた知見を社会へ還元できる(社会との接点となるフィールドを持った)プログラムの具体化を行った。【府大】 	<p>III</p>
<p>⑤ 医科大学・府立大学・京都工芸繊維大学(以下、「工芸大学」という。)の三大学による教養教育共同化において、少数で討論を行うリベラルアーツゼミナールや京都の文化などの地域的、歴史的、文化的特色を学ぶ京都学の充実などカリキュラムの見直しや学生間の交流を促進し、一層の充実を図るとともに、両大学独自のカリキュラムにおける初年次(導入)教育、高学年における教養教育の実施や学部・学科等の枠を超えた文理横断的な科目の充実を図るなど、幅広い視野や大局観、豊かな人間性と高い倫理観や創造力、生涯にわたって学び考える姿勢を有する人材を育成する。</p>	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学と文化・社会をつなぐ科目の新設を行うなど文理横断的な科目の充実を図り豊かな人間性を涵養するカリキュラムを受講生に提供するとともに、コロナ禍の状況下、様々な授業形態により授業の質を維持する。【共通】 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の現状に合わせて、人間交流を主とするプログラムのリベラルアーツゼミは原則、対面で行うが、自学自習の教育効果を遠隔講義群に生かしながら、オンデマンド講義も一交えて、教育効果の維持向上を図った。【府大】 	<p>III</p>

<p>⑥</p> <p>リカレント教育の充実においては、職業上必要な高度で多様な専門知識や技能の取得への対応、看護師等の復職支援のための再教育プログラムの充実などキャリアパスの多様化や社会人の学び直しニーズなどに的確に対応する。</p> <p>特に、医科大学では、大学院医学研究科において、地域の医療者のニーズに合わせたキャリア形成や地域における総合医療を担う人材養成科目を設置するとともに、保健看護学研究科においては保健看護の教育研究における看護実践に寄与できる指導者を育成する。</p> <p>また、府立大学では、府内の自治体職員の研修機能の拡充や地域活性化人材の育成のためのコースを設置するとともに、社会人の履修に適した教育プログラムの開発を推進する。</p>	<p>6</p> <p>・食品及び農林関連分野の地域貢献と教育の強化及び高大接続の強化を図るため、京都府北部及び南部(南部市場)における「サテライトオフィス」の整備計画を策定する。【府大】</p> <p>・学び直しを希望する社会人を対象とした大学院レベルの高度な専門知識や技能を培うリカレント教育プログラムの開発及びリモート・オンデマンド授業の開講など、社会人が受講しやすい教育環境を整備する。【府大】</p>	<p>・10月に北部サテライトオフィスを舞鶴市に開設し、1月に舞鶴市内3高校と高大連携協定を締結した。南部については、南部市場にオープンインベーション施設等を整備する計画を策定した。【府大】</p> <p>・京都府主催のリカレント教育会議において、京都府や他大学の教員と事務局職員を含め意見交換を行い、プログラムの開発に向けて、京都府が経済団体を通じて実施した学び直しニーズのアンケート調査を集約中である。【府大】</p>	<p>III</p>
---	---	---	------------

II 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項
 1 教育に関する目標
 (3) 継続的な教育システムの見直し

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
<p>⑦</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)が適切に策定され、ディプロマ・ポリシーで求める学修成果が達成されるよう、教育内容の第三者評価や学生アンケート等によるカリキュラムの検証・改善の継続的な実施や教育IR室の設置など、教育内容の検証・改善体制の強化による教学マネジメントを確立するとともに、ナンバリングの導入など科目の体系化や適切な成績評価、学生の満足度調査などを進め、学修成果の可視化と情報の公表を図る。</p> <p>また、FD研修の充実などにより、対話型授業や課題探求型学習等のアクティブラーニングの拡充など授業内容・方法の改善や教員の教育力の向上を図る。</p>	<p>7</p> <p>・2020年度の履修状況を踏まえ、学生が授業科目のレベルや専門性を勘案して履修できる科目ナンバリングの全学的な導入計画を策定する。【府大】</p> <p>・ハイブリッド型授業の導入に伴う課題等についてFD研修を実施し、授業内容・方法・カリキュラムの改善や教員の教育力の向上を図る。【共通】</p>	<p>・科目ナンバリング導入計画策定の目的である「学生の学修成果の可視化、学修成果に基づいた授業科目の選択・履修」が実現できるよう、eポートフォリオシステムを導入した。【府大】</p> <p>・ハイブリッド型授業の導入説明会(FD研修)における質疑に対応し、ハイブリッド型授業WG1において、ハイブリッド型授業に係る動画作成環境整備やWebカメラの導入方法等について検討し、動画コンテンツ作成を可能とする動画配信スタジオを文科省補助金により整備した【府大】</p>	<p>III</p>

II 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項			
1 教育に関する目標			
(4) 教育環境の整備・学生への支援			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
⑧ 入学金・授業料の減免など学生への経済的支援や障がいのある学生への配慮など、学生の修学や生活への相談対応や支援、学生生活における安全管理・健康管理を行う。入学時から卒業まで一貫したキャリア教育、きめ細かい進路相談・指導などにより就職活動の支援を推進するとともに、医科大学では国家試験対策を含めたキャリア形成支援の充実を図る。 また、ラーニングcommonsの充実などの学生の自主的な学習環境や、情報機器やネットワーク環境の整備によるICTの活用推進など、教育環境の整備を図る。	8 ・入学金・授業料の減免など国の就学支援制度を上回る学生への経済的支援を継続実施する。【共通】 ・オンライン授業を始め新しい生活様式になじめない学生に対しきめ細やかにサポートを行うなど、相談しやすい環境を整える。【府大】 ・キャリア入門講座を始め入学から卒業まで一貫したキャリア教育、きめ細かい進路相談・指導などにより就職活動の支援を推進する。【府大】	・国の修学支援制度では、減免割合が減少あるいは、対象外となった学生に対して、法人の現行制度により補完的に措置することにより経済的な支援を実施した。【共通】 ＜医大＞ 国制度を上回る授業料減免者数(前期分) (国制度併用11名、法人制度のみ適用15名) ＜府大＞ (前期) 国制度併用47名、法人制度のみ適用38名 (後期) 国制度併用42名、法人制度のみ適用29名 (通年) 国制度併用63名、法人制度のみ適用40名 ・学習支援室の体制を整備し、常勤コーディネーター1名を新たに配置した。修学上配慮が必要な学生に対し、きめ細かな相談対応や学習環境整備に係る調整を行った。【府大】 ・キャリアサポートセンターの体制強化を図り、有資格のキャリアカウンセラーを常時2～3名配置し、専門知識と経験に裏付けられた支援体制を構築した。3～4年生とM1～2年生を中心に、個別進路相談を1,853件、エントリーシート対策講座、模擬集団面接講座、グループディスカッション対策講座、企業研究の進め方及び公務員試験対策講座の就職講座計10回等、多様化する学生の価値観・ニーズに応じたきめ細かな就職活動支援を実施した。【府大】	IV
II 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項			
2 研究に関する目標			
(1) 戦略的な研究の推進			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
⑩ 府立大学において、文化庁との連携や京都学・歴史館との共同の取組などにより、地域文化創生・文化財保護・生活文化・伝統芸能・国際文化交流などに係る共同研究と共同事業の展開を推進する。また、次世代農林業などSDGsに強く関連した最先端の研究を推進する。	10 ・京都学・歴史館などと連携して展示・教育普及活動やアウトリーチ活動を行い、地域の課題に即した教育研究に取り組む。また、京都学・歴史館とのデジタルアーカイブについて順次デジタル化を進める。【府大】 ・防災・減災、新型コロナウイルス感染症等の新興感染症対策など、「防災・減災」、「人権リスク対策」を柱とする文理融合の総合的な学術研究の拠点として「京の防災防疫安全安心研究センター」(仮称)を設置する。【府大】	・京都学・歴史館との共同研究において、文化資源発掘に関する研究・分析及び研究成果の講演を行った。 ・京都学・歴史館と連携して、「京都の庭園：空間構成と借景」などの共催講座を実施した(年3回)。 ・「歴史館∞府大生 コラボで探る京都学」を令和3年12月11日～令和4年1月9日に開催した。展覧会開催4年目を迎える本年度は、文学部の全学科が参加した。歴史館の正規の事業としても位置付けられることとなり、京都府立大学と歴史館の連携が更に深化した。 ・京都学・歴史館とのデジタルアーカイブ化を進めた。さらに、令和4年3月から一般公開した。【府大】 ・4月に「京の防災防疫安全安心研究センター」を設置し、6月に全国組織である「公立大学防災研究教育センター連絡会議」に加盟して、組織的な活動を開始した。また、11月20日には開設記念シンポジウムを開催し、学術研究の成果の発表などを行った。【府大】	IV

<p>⑪ 両大学が連携して、農福連携、防災と環境、長寿と環境・栄養、創薬と臨床・バイオ等の分野の垣根を超えた学際的研究や、地域医療情報の集約・活用を行い、さらに工繊大学・京都薬科大学との4大学共同研究を学部と大学院が連携して推進する。</p>	<p>11 ・両大学が連携し、医農連携・医福連携など地域課題解決に向けた学際的研究を推進するとともに、4大学連携研究において、企業を含めた社会実装につながる新たな枠組（地域連携プラットフォーム）に向けた共同研究を引き続き実施する。 【共通】</p>	<p>・両大学連携・共同研究として「食後の満腹、満足感を創出する味覚と内臓感覚の中核統合システムの解明」に取り組んだ。4大学連携研究では企業を含めて社会実装につながる新たな枠組で5件の共同研究を実施した。【共通】</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>Ⅱ 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項 2 研究に関する目標 (2) 研究実施・支援体制の充実</p>			
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>	<p>計画の実施状況等</p>	<p>自己評価</p>
<p>⑫ 大学院を中心に共同研究講座や寄附講座の設置、学術研究を目的とした奨学寄付金など外部資金の獲得を支援するとともに、リサーチ・アドミニストレーター、プロジェクトマネジャー、コーディネーターの配置や事務部門による研究支援体制の強化を行う。</p>	<p>12 ・大学院を中心に共同研究講座や寄附講座の設置、学術研究を目的とした奨学寄付金など外部資金の獲得に向けて、リサーチ・アドミニストレーター、プロジェクトマネジャー、コーディネーターの配置や事務部門による研究支援体制の強化を引き続き行う。【府大】</p>	<p>・産学公連携リエゾンオフィスとして京都地域未来創造センターから独立し、意思決定を迅速化させるとともに、リサーチ・アドミニストレーター及びコーディネーターを配置し、競争的資金の公募情報をこまめに提供するなどして、研究支援体制の強化を行っている。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>⑬ 大型研究設備・研究機器の共同利用や計画的な更新、附属図書館の機能強化など、研究の支援体制を充実させるとともに、若手研究者・女性研究者の研究環境整備や育成支援、外国人研究者・教員の受入体制を整備する。</p>	<p>13 ・学生や教員の在宅を含めた学習・研究活動に資するため、電子ジャーナル・電子ブック・データベースの維持充実に努めると共に、全学メールやキャンパスWEB等媒体の活用、利用促進に取り組む。【共通】 ・学術機関リポジトリによる学位論文、学内紀要等の公開など、研究成果の発信を積極的に行う。【共通】</p>	<p>・電子書籍の充実(前年度比約100タイトル増)や電子ジャーナルやデータベースの見直し、電子リソースの学外利用を可能にするクラウド版プロキシサーバーのシステム導入などにより、電子ジャーナルの利用数が前年度比約1.6倍となるなど、限られた予算の中、研究支援の充実が図られた。【府大】 ・紀要論文(34件)、博士論文(11件)を学術機関リポジトリに登録し、研究成果の公開・発信を行った。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>Ⅱ 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項 2 研究に関する目標 (3) オープンな研究の推進</p>			
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>	<p>計画の実施状況等</p>	<p>自己評価</p>
<p>⑭ 教員間の交流組織や全学的な研究体制の構築や、大学や企業、行政等との連携によるオープンな共同研究の推進と研究環境の整備を図るとともに、国際センターの機能強化及び海外の交流協定締結校との相互交流により、教員の海外派遣と受入を促進し、国際的な共同研究を推進する。</p>	<p>14 ・学研究都市推進機構や京都大学等と連携して、大型研究プロジェクトを申請する。【府大】 ・(一社)京都知恵産業創造の森との連携強化や他大学と連携したオープンイノベーション事業により、開かれた共同研究体制を確立する。【府大】</p>	<p>・学研都市推進機構等と連携して、大型研究プロジェクトである内閣府の地方大学・地域産業創生交付金及びJST「共創の場形成支援プログラム」に申請した。【府大】 ・(一社)京都知恵産業創造の森と連携し、学内シーズと企業ニーズのマッチング案件に取り組んだほか、他大学との特許共願等に取り組むなど共同開発体制を確立した。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>Ⅱ 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項 3 地域貢献に関する目標 (1) 府や府内市町村、地域との連携</p>			
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>	<p>計画の実施状況等</p>	<p>自己評価</p>
<p>⑮ 自治体や府内企業等との連携を強化し、学生に対して府内を中心とした魅力ある企業・医療機関・自治体に係る情報の提供や就職相談を行うこと等により、卒業生の府内就職の促進に努め、優秀な人材の府内定着を推進する。</p>	<p>15 ・京都府内企業も含めた企業研究会などをオンラインによる開催も含め、積極的に企画・開催する。【府大】</p>	<p>・企業理解と業界理解を深めるため、多くの企業を招き、府大版オンライン合同企業研究会を開催した。学生が企業の人事担当者と直接接する機会を提供し、企業の事業内容を十分に把握できるよう、質疑応答の時間も設けた。(開催日:11月15日~26日(土日祝日を除く))、参加企業88団体、延べ参加者357名)【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>

<p>⑩ 府立大学では京都地域未来創造センターをはじめとして、府や府内市町村、府民やNPO、産業界等と連携した地域における福祉、災害対策、産業振興等の課題に関する調査・研究・政策提言などのシンクタンク機能を強化するとともに、教員や学生による地域貢献活動を推進する。</p>	<p>16 ・京都地域未来創造センターを中心に、府や府内市町村、府民やNPO、産業界等と連携した地域における福祉、災害対策、産業振興等の課題に関する調査・研究・政策提言などのシンクタンク機能を強化するとともに、教員や学生による地域貢献活動を推進する。【府大】</p>	<p>・21件の地域貢献型特別研究(ACTR)に取り組んだ。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>Ⅱ 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項 3 地域貢献に関する目標 (2)文化庁等との連携</p>			
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>	<p>計画の実施状況等</p>	<p>自己評価</p>
<p>⑪ 文化庁や他の教育研究機関との連携による共同授業や共同研究などの教育研究活動の強化を図り、文化の振興、文化財の保存と活用や地域の文化の継承・発展に活躍できる人材の育成を図るとともに、その教育・研究の成果を地域における文化的価値の再認識と共有によるコミュニティの再生と活性化、文化芸術の発展や文化活動・産業の振興に活かすなど、社会への還元を推進する。</p>	<p>17 ・教養教育共同化科目において、文化庁や京都学・歴彩館並びに文化財保護団体等と連携した新しい授業科目を開講する。【共通】</p>	<p>・八幡市教育委員会次長(八幡市立松花堂美術館館長兼務)や(一財)今日庵 今日庵文庫から新たに講師の招聘を行い、文化財保護に関わる関係団体との連携が広がる科目を開講した。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>Ⅱ 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項 3 地域貢献に関する目標 (3)産学公連携の推進</p>			
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>	<p>計画の実施状況等</p>	<p>自己評価</p>
<p>⑫ 学内リソースを活かして府内企業や農林水産業等の地域のニーズに応えるとともに、産学公連携による新たな製品開発や産業の創出につながる研究を推進する。さらに、和食文化に関わる産業の振興や食文化を活用した地域活性化を支援する。また、リエゾンオフィスの機能強化によるシーズ発掘、知的財産管理、研究成果を活かした技術移転・技術指導や、大学発ベンチャーへの支援等を推進する。</p>	<p>18 ・ニューノーマルに対応するため、インターネットに対応した研究シーズ集を作成し、オンライン展示会等へ出展する。【府大】 ・(一社)京都知恵産業創造の森や京都産業21と連携し府立大学発ベンチャーの設立を支援する。【府大】</p>	<p>・網羅的なシーズ集を作成し、8月にイノベーション・ジャパンにオンライン参加したほか、11月にアグリビジネス創出フェア及び京都ビジネス交流フェアにブース出展をして研究シーズの紹介に取り組んだ。【府大】 ・(一社)京都知恵産業創造の森と連携し、スタートアップやベンチャー設立支援のための学内情報提供や体制構築を行った。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>

II 教育・研究・地域貢献・医療の質の向上に関する重要事項			
3 地域貢献に関する目標			
(5) 生涯学習の推進			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
<p>⑳ 研究成果を活かした公開講座や公開イベント等の開催による府民の学習機会の拡大を図るとともに、次世代の人材育成に向けた小中学生・高校生などを対象とした大学の授業や研究体験機会の充実を図る。</p> <p>また、大学グラウンドや体育館などスポーツ施設や附属図書館など大学施設を府民に開放するとともに、施設を活用して地域との交流活動を推進する。</p>	<p>21</p> <p>・演習林や農場での府民を対象とした体験教室の実施や学研都市に立地する研究施設と連携した科学体験・公開講座を開催する。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の安全対策を講じながら、附属図書館、スポーツ施設など大学施設の利用を図る。【府大】</p>	<p>・附属農場においては、ユースカルチャーデー(小学生の部、成人の部)を新型コロナウイルス感染症対策を行いながら開催した。また、生物資源研究センターの施設公開の際に実施された府民を対象とした講義に出講した。【府大】</p> <p>・府大演習林において府民(高校生)対象の野外セミナーを10月2日に実施した。【府大】</p> <p>・京都学・歴史館主催の府民向けのイベント(「下鴨中通ブックフェア」10月10日)などへの協力を通じ、地域との交流活動に取り組んだ。また、本学の「感染症拡大防止のためのガイドライン」に則り、12月1日から新たな基準を設けた上で図書館の府民利用を再開した。【府大】</p>	III
III 業務運営の改善等に関する事項			
1 業務運営に関する目標			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
<p>㉑ 理事長のリーダーシップにより理事会・経営審議会の活性化を図るとともに、業務・責任体制の明確化、日常的モニタリング、リスク管理、契約事務の適性化、内部通報制度の充実、情報公開など法人の業務方法書に基づいた対応により内部統制を推進するなど、法人運営の透明性の確保と法人全体のマネジメントを強化する。</p> <p>また、京都府と法人・両大学により大学総合運営会議を設けて、定期的な協議・意見交換を行うなど連携強化を図る。</p>	<p>30</p> <p>・理事長のリーダーシップのもと、法人全体のマネジメント強化と意思疎通緊密化のため、理事会、経営審議会の効果的な運営を図るとともに、理事長・両大学学長・事務総長による経営戦略会議を計画的に開催し、今後の大学のあり方など法人の重要課題について議論を深める。【共通】</p> <p>・京都府と法人のトップによる大学総合運営会議により法人・大学における課題や将来構想について協議・意見交換を行い、連携強化を図る。【共通】</p>	<p>・施設整備や学部学科再編など法人の重要課題について議論する会議を計画的に開催</p> <p><主な協議事項></p> <p>令和2年度年度計画の評価及び令和4年度年度計画の策定</p> <p>大学改革の推進に係る取組(医大:関連病院との機能・役割の分担、府大:学部学科再編)</p> <p>附属病院の経営改善の取組状況</p> <p>三大学教養教育</p> <p>【共通】</p> <p>・京都府と法人のトップによる協議・意見交換を行うため大学運営会議を開催</p> <p><主な協議事項></p> <p>医大:関連病院との機能役割分担を踏まえた大学・病院の施設整備</p> <p>府大:学部・学科再編を踏まえた施設整備</p> <p>【共通】</p>	III
<p>㉒ 大学を取り巻く環境変化に対応する、教職員が一体となった大学改革を推進するため、学生の意見も取り入れ、新任教員・職員研修や教育マネジメントリーダー育成研修などFD・SDの共同実施や教職員の共同プロジェクトチームの導入を更に進めるなど、教職員の教育(支援)能力や大学運営における企画・管理能力を向上させるとともに、教職協働を軸とした学長による大学ガバナンスの強化を図る。</p>	<p>31</p> <p>・AIの導入や情報セキュリティに係るFD・SDの充実や教職員の意思疎通の円滑化、教職協働を軸とした、学長ガバナンスの強化を図る。【府大】</p>	<p>・「学生ワークショップ」を令和4年3月18日に開催した。【府大】</p> <p>テーマ:「キャリア育成科目」と「オンライン授業の教養教育」</p> <p>参加者:学生38人・教員10人・職員1人</p> <p>・SD研修兼人権研修をオンデマンドにより7月～8月、3月に実施した。【府大】</p> <p>・大学改革に向けた学長のガバナンスの強化を図るため、学長特別補佐4人(外部2人、教員2人)を任命した。【府大】</p>	III
<p>㉓ 教職員全員の広報意識の向上を図り、両大学の特色や存在感を高めるための情報の発信と戦略的広報を実施するとともに、大学ランキングへの反映も意識した両大学のブランド力の強化を図る。</p>	<p>32</p> <p>・インターネット講演会等を活用し、学長広報の充実を図り大学のプレゼンス向上を図る。【府大】</p>	<p>・学長広報について、7月に京都中小企業協同組合中央会、8月にイノベーションジャパンで講演を行ったほか、12月に京都商工会議所での講演を実施した。【府大】</p>	III

<p>③③ 情報管理体制の充実、教職員への啓発・研修や必要な規程整備等を行うとともに、インシデントが発生した時に迅速かつ的確に対応できる体制を構築するなど、情報セキュリティ対策を強化する。</p>	<p>33 ・教職員等に対して、情報セキュリティについての情報提供や注意喚起、情報管理等に関する研修をオンラインによる実施を含め行う。【共通】</p>	<p>・4月に対面方式により情報セキュリティに関する研修を実施した。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>③⑤ 府立大学においては、Society 5.0(超スマート社会)など社会の変化に対応するとともに、地域課題の解決や文化による新しい価値創造など、地域社会や国際社会の持続的な発展の実現に貢献できる未来に向けた大学の再編、社会の要請に対応した教育研究体制の構築を図る。</p>	<p>35 ・新生・府立大学としての新たな教育研究体制(学部・学科再編等)の具体化に向けた調査・検討を行い、京都府と協議しながら府立大学としての方針決定を行い、体制・施設整備に向けた準備を進める。【府大】</p>	<p>・新たな学部学科再編の方向性について学内で検討を進め、府及び法人とも協議しながら「『新生・京都府立大学』改革プラン」として取りまとめた(令和4年1月)。【府大】</p> <p>・本プランによる方針を踏まえ、令和4年度の文科省設置審事前相談に向けた書類作成、各種調整等本格的な準備に取り組んだ。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>Ⅲ 業務運営の改善等に関する事項 2 人事管理に関する目標</p>			
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>	<p>計画の実施状況等</p>	<p>自己評価</p>
<p>③⑥ 情報リテラシーや国際的なコミュニケーション力の向上を図るなど、Society 5.0(超スマート社会)やグローバル化に対応できるよう職員の能力育成を図るとともに、有期雇用職員の処遇改善を始め雇用形態に関わらない公正な待遇の確保を進め、その能力の活用と能力開発を行う。</p>	<p>36 ・京都府や公立大学協会等が行う各種研修への職員派遣や学内FD・SDへの職員参加等により大学教職員としてのスキルアップを行う。【共通】</p> <p>・有期雇用職員の給与等の処遇改善を実施するとともに、業務に必要な研修の受講により能力開発を進める。【共通】</p>	<p>・オンデマンドによるSD研修兼人権研修を7～8月、3月に実施した。【府大】</p> <p>・採用・転入した教職員を対象に4月に新任研修を実施し、必要な基礎知識の定着を図った。【府大】</p> <p>・法人会計の知識向上を目的に、公大協が行う会計セミナー(オンデマンド研修)に職員を参加させた。【府大】</p> <p>・有期雇用職員の産前産後休暇の有給化や育児休業制度の取得要件の見直しを図るなど処遇改善を実施した。【共通】</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>③⑦ 女性教職員の積極的な採用・就業支援・管理職への登用などジェンダー平等の実現や外国人教員・研究者の採用などのダイバーシティの推進を図るとともに、プロパー事務職員や実務経験を有する教員の採用拡大、任期付教員制度や複数の大学・企業等と雇用契約を結ぶクロスアポイントメント制度の充実など業務の必要性に応じた多様な人材の採用や配置を行う。</p>	<p>37 ・新「一般事業主行動計画」(令和2年度策定)に基づき、女性研究者の採用拡大や休暇が取りやすい職場環境の整備など女性が活躍できる職場・制度づくりを進める。【共通】</p>	<p>・教員の公募要件に男女共同参画の取組推進について記載するなど、女性の登用・登用促進の取組を実施している。なお、令和3年4月1日現在で、教員に占める女性教員の割合は全体で27.0%(前年比1.7ポイント増)、教授では21.2%(前年比1.2ポイント増)である。また、この目標の達成のため、新たな「女性教員の採用・登用の促進のためのアクションプラン」を学部ごとに策定した。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>
<p>③⑧ 出退勤管理・時間外労働の是正・労働時間管理の適正化、職場ハラスメントの防止、健康でない状態を見逃さないメンタルヘルス対応など安全衛生管理体制の充実、AI導入による効率化、会議のあり方や運営方法の改善、さらに組織風土改革や意識改革の推進など、より多くの人に選ばれる職場環境づくりを進めるとともに、教職員が出産・育児・介護などライフイベントに応じた生活を安心して送ることができるよう、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)など、仕事環境・人材育成・業務改善の視点からの働き方改革を推進する。</p>	<p>38 ・出退勤管理システムの適正な運用と、ワーク・ライフ・バランス推進研修等の実施、労働時間の客観的な実態把握、長時間労働の是正など、働きやすい職場環境づくりを推進する。【共通】</p>	<p>・出退勤管理システムの打刻・入力漏れがなくなるよう周知を図るとともに、一括で修正対応を行うなど適正な運用を図った。【府大】</p> <p>・毎月の時間外勤務の状況と累計を各所属に通知し、36協定を超過する者が出ないように注意喚起をするなど、時間外縮減に向けた取り組みを行い、昨年度に比べ400時間縮減した。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>

Ⅲ 業務運営の改善等に関する事項 3 効率的経営の推進に関する目標			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
③⑨ 1法人2大学のメリットを活かし、国際センターやリエゾンオフィスなどにおける海外の大学や企業情報の収集、知的財産管理業務及び広報業務など幅広い事務全般について、両大学の強みや独自性を活かしながら連携強化や共同化を推進する。また、大学事務局・病院事務部の業務内容や業務量の変動に伴い、事務局組織の見直しや適正な職員配置に努めるとともに、企業、国や自治体、他大学等において実務経験を有する外部人材職員を適材適所において登用を進める。また、大学外で行った方が効果的・効率的・経済的に行えるような業務については、外部への業務委託を一層進める。	39 ・知的財産、産学連携、国際交流、広報、情報セキュリティ等両大学事務の共同化や連携強化について両大学合同で検討を進める。【共通】	・知的財産、産学連携に関する事務について、両大学共通の事務の確認を行い決裁ルートの見直し等による効率化を図った。【共通】 ・コロナ禍における留学生の受入等の対応について情報共有を行った。【共通】 ・広報については、共同でのプレスリリースの実施、共同研究に関する取材情報の共有など適宜情報交換を行った。【共通】	Ⅲ
④⑩ 汎用性が高く標準化されたシステムやRPA等の導入などICT活用により、学生支援業務、教育研究支援業務や総務・人事・会計等の事務や診療業務の迅速化・省力化を推進する。	40 ・令和4年度入試からWeb出願を順次導入する。(令和4年度入試：一般選抜。令和5年度入試：学校推薦型選抜)【府大】	・令和4年度入学の一般選抜試験について、Web出願を導入し、1,778人からのWeb出願があった。	Ⅲ
Ⅳ 財務内容の改善に関する事項 1 収入・経費等に関する目標			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
④⑪ 病院収益の向上対策、社会経済情勢の変化に応じた授業料や病院使用料・手数料等の見直し、外部資金の積極的獲得、ふるさと納税制度と連携した基金の充実と活用等により自主財源の確保を図るとともに、経費の抑制と効果的な執行による支出管理や法人資産の有効活用・財産保全を図る。	41 ・教育設備等の充実など、教育環境の向上を図るため、保護者、同窓会及び個人・企業からの寄附や京都府と連携してふるさと納税を積極的に募集するなど、大学支援者の拡大に努める。【共通】	・同窓会からの寄附やふるさと納税について積極的に募集を行うとともに、人材育成等に係る国庫補助金を獲得するなど、教育・研究に係る財源確保に努めた。【共通】 【府大】 令和3年度 27件 1,211千円	Ⅲ
Ⅴ 教育研究及び組織運営の状況の自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項 1 自己点検・評価及び業務運営への反映等に関する目標			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
④⑫ 教育研究や法人・大学全般に対する内部質保証及びIR室の設置によるIR機能強化を図るとともに、認証評価機関による第3サイクルの評価の受審や分野別評価の実施、法人評価委員会など第三者評価結果の積極的な活用を進め、第三者評価結果に基づいた改善の実施、年度計画の達成状況等の公表を行う。	42 ・令和5年度に一般財団法人大学教育質保証・評価センターの大学評価を受けるべく準備を進める。【府大】	・3月に自己評価委員会を開催し大学認証に向けたスケジュールを策定した。 ・(一社)大学教育質保証・評価センターへの加入を決定し予算措置を行った。【府大】	Ⅲ

VI その他運営に関する重要事項 1 教育研究・診療施設の計画的整備に関する目標			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
<p>④③ 将来を見据えた大学施設の整備計画の策定及び順次実施、老朽化対策・長寿命化対策等を計画的に実施する。</p> <p>① 附属病院、附属北部医療センターの高度医療への対応(メディカルセンター、SCU、HCU、ICU等の整備)、患者アメニティの向上のための改修・整備及び老朽化対策を行うとともに、加えてSociety 5.0(超スマート社会)に適合した附属病院も含めた医科大学の教育・研究部門の整備を行う大学全体のキャンパス構想を策定して、計画的な整備を推進する。</p> <p>② 府立大学のキャンパス整備に関する基本計画に基づいた計画的整備を推進する。</p> <p>③ 府の北山「文化と憩い」の交流構想に沿った共同体育館の早期整備を行う。</p>	<p>43</p> <p>・老朽化した4号館の解体を行うとともに新生・府立大学の新たな教育研究体制(学部・学科再編等)実施に必要な施設・設備等の整備に係る調査・検討を行う。【府大】</p> <p>・共同体育館の早期完成に向けて施設や機能規模等について、京都府との協議・調整を進め、併せて、仮設体育館の整備を進める。【共通】</p>	<p>・老朽化した4号館の解体を完了した。</p> <p>・学内の施設整備委員会を6回開催するとともに、精華キャンパス整備ワーキンググループも開催し、学部学科の再編等も踏まえた「府立大学整備構想」を策定した。【府大】</p> <p>・共同体育館について、京都府と学内関係者の意見交換を行い、施設の機能・規模等について、早期にレイアウト等全体像を学内に提示できるよう、京都府と調整を進めた。</p> <p>・仮設体育館は、令和4年度初頭から供用を開始できるよう、整備を完了した。【府大】</p>	III
VI その他運営に関する重要事項 2 コンプライアンスの徹底に関する目標			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
<p>④④ 監事監査・内部監査機能の強化や、教職員や学生に対する研修等を通じた倫理意識の向上、公益通報制度の周知を図る。</p>	<p>44</p> <p>・コンプライアンスの推進のため、監事監査、内部監査の機能充実に取り組むとともに、コンプライアンス指針に基づき、研修会やガイダンスなどの機会を通じて教職員、学生への倫理意識の向上と相談体制の周知を徹底する。【共通】</p>	<p>・内部監査については、物品購入、委託等に係る納品検収など会計監査だけでなく、時間外労働、年休取得及び勤怠システム運用の状況、教育研究評議会の運営状況など業務監査も実施した。また、公的研究費の執行状況についても内部監査及び内部モニタリングを実施した。【共通】</p> <p>・文科省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の改正を踏まえ、ガイドラインに基づく令和4年度の研究費不正防止対策の実施に向け、令和3年度中に学内規程の整備や監事監査を含む体制整備を完了した。【共通】</p> <p>・文科省のガイドライン等の改正を踏まえ、9月に「京都府立大学における研究活動上の不正行為等への対応に関する規程」、「公的研究費に係る不正対策に関する規程」等を改正の上コンプライアンス研修を実施し、理解度試験を実施した。(正答率97.6%)【府大】</p>	III
<p>④⑤ 研修や研究計画・研究倫理・利益相反の審査、内部監査の実施などにより、研究費の不正使用などの不正事案の防止や研究の信頼性の確保を図る。</p>	<p>45</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の収束状況を見極め、集合研修を基本としつつ、補足的にWebDiskを使ってコンプライアンス研修を実施する。【府大】</p>	<p>・文科省のガイドライン等の改正を踏まえ、9月に「京都府立大学における研究活動上の不正行為等への対応に関する規程」、「公的研究費に係る不正対策に関する規程」等を改正の上コンプライアンス研修を実施し、理解度試験を実施した。(正答率97.6%)【④④再掲:府大】</p>	III

VI その他運営に関する重要事項 3 人権に関する目標			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
④7 教職員に対する研修等の実施により、人権意識の向上、ハラスメント等の人権侵害の防止、人権尊重の視点での法人・両大学の業務遂行の徹底を図るとともに、学生に対する人権や生命倫理に関する教育カリキュラムを充実する。	47 ・全教職員及び学生の人権に対する意識を向上させるため、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、実施方法を工夫しながら、研修や授業を通して人権啓発(教育)を行う。【共通】	・学生に対し「人権教育科目」として以下の授業を実施した。 「人権論(人文・社会科学系)」 「人権論(自然・生活科学系)」 「インターネットと人権」 「現代社会とジェンダー」 ・オンデマンドによるSD研修兼人権研修を7～8月、3月に実施した。 ・採用・転入した教職員を対象に4月に新任研修を実施し、必要な基礎知識の定着を図った。【府大】	Ⅲ
VI その他運営に関する重要事項 4 危機管理体制の確保に関する目標			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
④8 教職員や学生の健康管理、実験や実習、国際交流など海外での活動等、教職員の学内外での教育研究活動における安全管理体制を整備する。 また、地震や豪雨等自然災害発生時の対応、大学・病院内での事故・事件等不測の事態への対応や不適切事案発生時の対応等緊急時における対応マニュアルの整備を行い、事案発生時の速やかな公表、原因究明、責任体制、再発防止対策の策定など、迅速かつ適切な対応ができるよう危機管理体制を構築する。	48 ・令和2年度に見直した内容に基づく防災訓練を実施し、現状に即した内容になっているか検証の上、必要な修正を行う。【府大】	・新型コロナウイルス感染症の状況を見据え、消防訓練をオンデマンドで実施した。また、防災訓練を実施し、内容を検証した結果、災害本部等の本部長の職務代理の順番の整備や夜間や休日等の情報共有手段をLINEからTeams等に変更するなど防災計画等を実情に見合った形に修正した。【府大】	Ⅲ
VI その他運営に関する重要事項 5 環境への配慮に関する目標			
中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
④9 教育研究活動や業務運営、施設整備での環境への配慮・徹底した省エネ対策や地球温暖化対策を推進するとともに、農薬・医薬品等の廃棄の適正な管理体制の確保を図るなど環境負荷の軽減や環境汚染対策を推進する。特に、医薬品・医療材料等を除き廃プラスチック類や紙類など大学からのゴミ排出ゼロ(ゼロエミッション)を目指した活動を実践する。	49 ・空調、照明等の適正使用、業務見直し等による総労働時間短縮など環境に配慮した取組を推進するよう、省エネ・節電対策に関する周知・意識啓発を行う。【共通】 ・毒劇物について、令和2年度に定めた廃棄ルールに基づき適正に廃棄する。また、ゴミの排出量の削減に向けて、引き続き啓発を徹底する。【府大】	・夏季における省エネ・地球温暖化対策として軽装勤務や適温冷房(28℃)・適温暖房(19℃)の実施などに取り組んだ。【共通】 ・毒劇物については、ルールに基づき、適正に保管、廃棄している。【府大】 ・ゴミの排出量の削減に向けては、12月にルールに基づいた処分について周知し、ゴミの適正廃棄と排出量の削減に努めた。【府大】	Ⅲ

VI その他運営に関する重要事項
6 大学支援組織の形成・拡大等に関する目標

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	自己評価
<p>⑤0 OB組織や関係者への働きかけ強化や周年事業の活用、寄附金等の募集などにより、大学応援組織(同窓会、後援会、関連病院等)の形成・強化や経済界等とのネットワークづくりを図り、両大学の幅広い支援者を確保する。また、医科大学においては、創立150周年事業を実施する。</p>	<p>50 ・同窓会、後援会等大学応援組織との連携を強化するとともに、経済界等とのネットワークづくりに取り組む。【共通】</p>	<p>・(一社)京都知恵産業創造の森及び京都産業21との具体的な交流活動及び連携を進めるとともに、京都クオリアフォーラムへの参加や、京都商工会議所や京都経済同友会とで学生が参加する企業との交流プログラムを開催するなどして、経済界とのネットワークの構築に努めた。【府大】</p> <p>・同窓会会報誌「Sá・Ku・Ra」に本学の専用ページを設け、情報発信に努めた。【府大】</p> <p>・後援会と会員交流会を共同開催するとともに、会報誌「緑風通信」に本学の情報を掲載した。 なお、いずれの会報誌においても編集等の事務は本学が担うなど関係強化に努めた。【府大】</p> <p>・11月6日の同窓会・後援会・校友会共催の講演会においても、ふるさと納税寄付金の協力を頂くとともに、本学のPRを行った。【府大】</p>	<p>Ⅲ</p>